

4. 図 解

農作業事故防止 ここがポイント

図 解

農作業事故防止 ここがポイント



目 次

はじめに

I. 農作業事故の発生状況

1. 減らない農作業死亡事故
2. 農機による死亡事故の4分の3はトラクター、耕耘機、運搬車
3. 農作業事故、推計45,000件異常発生
4. 農作業事故は、ほとんど増減無し

II. 農作業事故の特徴

1. 集中して発生している農機具がある
2. 高齢者に集中する農作業事故

III. 農作業事故の要因

1. どうして、農作業事故防止が難しいか
2. 事故を誘発する農作業の特殊性
3. 農作業事故防止の進め方

IV. 機種別事故の特徴

1. 機種毎に特徴的な事故の形、事故様態がある
2. トラクター事故の特徴
3. 草刈機事故の特徴
4. コンバイン事故の特徴
5. 耕耘機事故の特徴

V. 異なる作業での共通要因 一人・物・環境による事故要因一

1. 人に関わる共通の事故要因
2. 物（農機具など）に関わる共通の事故要因
3. 環境に関わる気腰痛の事故要因

VI. 農作業事故に「安衛法」を

1. 「安衛法」等の考えを農作業事故防止に適用すると
2. 「安衛法」等の考えで予防・減災可能なこと

VII. 緊急時の対応

1. 緊急事態を一刻も早く伝える
2. 事故時の対応、これだけは
3. 留意点

はじめに

これまでの事故対策、「あれもこれも大切、注意を！」からの脱却を

日本の農作業事故において、死亡事故についての全国的な統計はあるのですが、「農作業事故」についてはありません。

そのため、さまざまな分野の人々が、「この対策こそ一番重要」、「このような注意をすれば事故は防ぐことができる」等々、多くの議論をしています。

しかし、残念ながらその議論は一般論であり、事故の実態に基づいたものではありませんでした。

例えば、トラクターの事故は「年間1000件発生し、そのうち作業機の取替中の事故が250件、走行中の事故が200件起こっており、……」、であるから「作業機取替中の事故を防ぐため、取替手順を正しく理解し……」、「走行中の事故は、特にブレーキの連結ロックをすることが重要……」など、具体的な事故の実態に基づく対策提案がされてきませんでした。

もちろん、これまでの事故対策の提案が無意味と言っているわけではありません。個々にはもちろん大切な事柄です。しかし、「最も多い事故を叩き、最も多い原因、とくに重大事故から潰していく」という、事故対策のセオリーからすると、「あれも大切、これも大切、全てに気をつけましょう」という考え方から脱出する必要があります。

農作業事故の実態に基づく、安全対策を！

－農水省「農作業事故の対面調査」および疫学調査を基に－

平成23年度から4年間、農林水産省の補助事業として「農作業事故の対面調査」を実施してきました。これは、実際に事故に遭った方に直接事故の状況をうかがい、現場検証を行い、事故要因を明らかにするという調査で、4年間で集まった事例は575件です。

これは、事故調査に協力いただける方を探し出し調査したものであり、事故の頻度を示すものではありません。しかし、500例を超える事故事例から、事故の傾向はうかがえます。また、この調査と合わせ、本学会が2000年に全国1道8県で全共連の道県本部で行った生命共済・傷害共済証書から抽出した約10,600件の結果は、一部の道県とはいえ、かなり全体の頻度を反映した結果となっています。

ここでは、これらの結果も踏まえて、事故防止のポイントについて、図解的に示しました。これらのポイントを配慮していただくことにより一定の事故防止につながることを期待しています。

ただし、農業機械や農具の改善、さらには環境の改善、施設の改善など、他産業と比較して極端に遅れているこれらの改善がされないと、根本的な解決にはなりません。また、一人ひとりの注意も大切ですが、組織的な安全管理体制が整わないと解決できない問題も根本的に存在します。そのことを念頭に置きつつ、農作業安全の一助として利用していただければ幸いです。